

岡山県医師会女医部会報

第12号

岡山県医師会勤務医部会・女医部会合同総会

日 時：平成23年6月26日（日）14：00～16：30

場 所：岡山衛生会館 5階 中ホール



次 第

(総合司会：岡山県医師会女医部会 副部会長 深田 好美)

- 1. 開 会 岡山県医師会女医部会副部会長 深田 好美
- 2. 挨拶 岡山県医師会 会長 井戸 俊夫
- 3. 勤務医部会総会 H22年度事業報告・H23年度事業計画
岡山県医師会勤務医部会担当理事 清水 信義
- 4. 女医部会総会 H22年度事業報告・H23年度事業計画
岡山県医師会女医部会部会長 中島 道子

5. 発表

アンケート「当院における医師アシスタントの現状」

岡山済生会総合病院 地域医療センター長 大澤 俊哉 先生
勤務医等環境整備事業関係者会議 岡山県病院協会 参与 佐藤 能之 先生

6. 特別講演

I 「岡山大学MUSCATプロジェクトの取り組み」

岡山大学医療人キャリアセンター MUSCAT副センター長

岡山大学医学部医歯薬学総合研究科地域医療人材育成講座助教 川畑 智子 先生
(座長：岡山県医師会女医部会 副部会長 池田 元子)

II 「ハーバード大学教育病院での臨床経験」

山口宇部医療センター呼吸器外科系診療部長 岡部 和倫 先生
(座長：岡山県医師会勤務医部会 担当理事 清水 信義)

7. 質疑応答

8. 閉会挨拶

岡山県医師会勤務医部会 担当理事 糸島 達也

9. 閉会

茶話会

勤務医部会・女医部会合同総会 挨拶

岡山県医師会 会長 井戸 俊夫



今日は、岡山県医師会の勤務医部会と女医部会との合同総会にお集まり頂きありがとうございます。

今、女子医学生の比率が増え、やがて半数を占めるのも間近とされています。女性は医師免許を取った後、出産、育児、介護等大変な問題がのしかかり退職を余儀なくされることがあります。そこで、女性医師のために県医師会として何かやれることはないかと思い、女医部会担当山崎理事、神崎理事、女医部会長にも働きかけているところです。

医師会は開業医の集まりと言われていますが、それは結局は勤務医の先生方への対策があまり取られていないと言うことの裏返しかとも思っています。勤務医部会につきましては、清水理事、糸島理事にいろいろアイデアを出していただき、岡山大学もでき少しずつ取り組みが進んでいます。

これからは勤務医、女性医師の問題を無視しては医師会は成り立たなくなります。

今日のような会にできるだけ多くの皆様に集まっていただき、新しい取り組みについてご検討いただきたいと思います。

本日はお忙しい中お集まりいただき感謝致します。

平成22年度 勤務医部会 会務報告

1. 平成22年度全国勤務医部会連絡協議会（日本医師会主催，栃木県医師会担当）
平成22年10月9日（土）清水，江澤理事が出席した。
2. 平成22年度都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会（日本医師会）
平成22年11月19日（金）清水理事が出席した。
3. 郡市地区医師会勤務医担当理事・生涯教育担当理事合同会議
平成22年12月11日（土）

平成23年度 勤務医部会 事業計画

1. 岡山県医師会勤務医部会委員会を開催し，勤務医の医師会活動の活性化を図る
2. 平成23年度全国勤務医部会連絡協議会への出席（平成23年10月29日）
3. 「岡山県医師会研修医登録会員制度」の設置
平成23年6月25日現在の登録者数 15名
4. 医学生・若い医師のためのレター「Good Doctor」発行

平成22年度 女医部会 事業報告

1. 第1・2・3回岡山県医師会女医部会委員会
平成22年5月22日（土），6月27日（日），12月11日（土）に開催した。
議題1. 役員改選，2. 平成22年度事業報告，3. 平成22年度事業計画，4. 第4回総会，5. 懇談会，6. アンケート調査，7. 女医部会報（第10号・11号），8. Enjoi通信，9. 勤務医等環境整備事業について協議した。
2. 第4回岡山県医師会女医部会総会
平成22年6月27日（日）午後2時から岡山衛生会館中ホールにおいて開催した。
平成21年度事業報告の後，平成23年度事業計画を協議した。「女性医師が働きやすい環境と女性医師の離職復職状況」「働き方の意識調査」についてアンケート調査結果を清水順子副部会長が発表した。
特別講演としてNPO法人イージェイネット「女性のキャリア形成・維持・向上をめざす会」代表理事 瀧野敏子先生が、「働きやすい病院を見てまわって考えたこと」を講演された。
3. 第6回男女共同参画フォーラム
平成22年7月24日（土）午後1時から城山観光ホテル（鹿児島）において開催され、

女医部会より中島部会長が出席した。

4. 岡山県医師会保育支援事業研修会・第6回岡山県医師会女医部会懇談会

平成22年9月25日(土)に開催した。「山口県医師会保育支援事業について」を山口県医師会女性医師参画推進部会理事 上田聡子先生が講演され、「保育支援の実務を担当して」を山口県医師会女性医師保育相談員 崎里節子先生が講演された。

5. 女子医学生・研修医等をサポートするための会

第1回岡山MUSCATフォーラムの岡山大学と共催で平成22年10月10日(日)に開催された。テーマ「大学と地域の協働で踏み出す 医療人支援の新たな一歩」として、特別講演の後、パネルディスカッションで宮島裕子先生、神崎寛子理事が指定発言を行った。

6. 第8回女性医療フォーラムを後援

平成22年11月13日(日)岡山労災病院が主催した、「女性のワークライフバランスを考える～晴れ晴れと生きるために～」を後援した。

7. 第1・2回平成22年度勤務医等環境整備事業関係者会議及び女性医師等支援会議

平成22年9月2日、平成23年2月3日に、岡山県病院協会、岡山県医療推進課、岡山大学、岡山県医師会、岡山県医師会女医部会の担当者が参加し、議題1. 支援窓口の統一化、2. 保育支援事業、3. 女性医師バンクとMUSCATプロジェクト地域医療機関復職支援事業の連携、4. 「女子医学生・研修医等をサポートする会」の広域化等について協議した。

8. その他

①女医部会報(第10号・11号)の発行、②女性医師相談窓口事業ポスター、チラシ、ティッシュの作成及び配布、③県内保育園等のデータベース作成、④岡山県医師会主催講演会での託児サービス開始、⑤岡山県医師会ホームページへの女性医師支援コーナー開設、⑥岡山県女性医師等支援委員会設立

平成23年度 女医部会 事業計画

1. 勤務医部会との連携と発言力の強化を図る

- 勤務医部会と合同総会を開催する
- 勤務医部会・岡山県病院協会と連携して、勤務医の就労環境等の改善を図る

2. 女性医師相互の研鑽、親睦を図り、社会的地位の向上をめざす

3. 女性医師による地域医療の推進と社会活動の活性化を図る

4. 女性医師バンクの活用を推進する

5. 保育相談事業(保育園等の情報提供)を推進する

6. 保育支援事業(託児会社との法人契約等)を推進する

7. 岡山県医師会主催講演会での託児サービスを推進する

8. 女医部会委員会、総会を開催する

- 委員会：5月21日（土）開催，12月10日（土）開催予定
 - 総会：6月26日（日）開催
9. 医学生・女性医師との懇談会の開催を推進する
- 9月10日（土），11月26日（土）開催予定
10. 女医部会報を発行する
- 第12号 平成23年8月発行，第13号 平成24年2月発行予定

医師事務作業補助体制についてのアンケート集計結果

岡山済生会地域医療センター長 大澤俊哉先生から「当院における医師アシスタントの現状」について講演。医師の事務作業軽減のため事務補助員として24名（うち正職員3名）を雇用。

岡山県病院協会参与 佐藤能之先生からアンケートの発表があった。事務補助員を使う割合は内科が多い。毎年繰り返す書類の作成では大きな助けとなっている。整形外科では自賠責の書類作成が大部分であった。他の外科系ではなかなか難しいのが現状。

問題点としては、以下が挙げられる。

- 入れ替わりが激しいためレベルの維持が難しい。
- 他の職員との関係がはっきりしない。
- 医師が楽にならず，他の職員が楽になる。
- まとめとしては，書類の処理がスムーズになる。
- 専門職としての認知が必要と考えられる。
- そのため教育研修の充実が不可欠。将来は資格制度も必要か。

講演後の一問一答。

Q 勤務医会が教育をしてはどうか。

A 教育機関はあるが費用が高い。教育してもすぐに辞められる。

Q 専門知識がないのが致命的。

A 済生会の肝臓センターでは10年のキャリアを持つ人がいた。

Q 診断書の一元化はできないか。

A 保険会社が異なる様式を使っている。

講演は主に病院に関してで，開業医も書類を書くことはあってもその頻度は比較にならない。全て任せられるとしても最後には医師が確認するべきであろう。どれほど優秀なアシスタントがついても医師が雑用から解放されることはまだまだないようである。この講演を聞くまでは岡山でも補助員の普及がこれほど進んでいるとは知らず，大変有意義な講演であった。

(文責 岡山県医師会女医部会委員 高橋武代)

特別講演

「岡山大学MUSCATプロジェクトの取り組み」

岡山大学医療人キャリアセンター MUSCAT副センター長

岡山大学医学部医歯薬学総合研究科地域医療人材育成講座 助教 川畑 智子先生



平成19年度文部科学省医療人GPの採択を受けた「女性を生かすキャリア支援計画」は約3年間で復職支援を柱としてさまざまな活動を行った。

MUSCATプロジェクトは平成22年度から女性医療人支援と男女共同参画の実現を目指した取り組みとして前活動を引き継ぐ形で新たなスタートを切った。臨床現場定着を目指した活動としては先輩から後輩へ知識を伝えるネットワークシステム、また臨床現場復職を目指した取り組みとしては個々のニーズに合った復職

プログラムと生涯学習システムを柱としている。医療人キャリアセンター MUSCATは、現在地域医療人材育成講座内に位置しているが、岡山県の補助、医師会をはじめ岡山県下の様々な団体と連携している。

MUSCATのホームページも充実を目指し、アクセスしやすい環境を整備している。

平成20年頃、復職者として私自身がその渦中にいた。もともと岡山大学でリウマチ内科を専攻したいと考えていたが、すべてが未確立の段階で二人の子供を妊娠・出産した。双方の両親は県外に在住し、夫も多忙とほかに頼る人もなく、一人で子育てを担うことに不安を抱え復職を悩んだ時期もあった。そのような時に腎・免疫・内分泌代謝内科学の牧野教授をはじめ医局の先生方や医療人キャリアセンター長の片岡先生、友人などから復職を多角的に支援していただいた。「女性を生かすキャリア支援計画」取り組み時に設立された復帰支援枠を利用し、短時間勤務から段階的に復職を果たした。その後縁あってキャリアセンターのスタッフになり、まずは復職支援の一環である岡山大学病児保育室の設立に携わった。

平成21年には岡山大学病院看護職員を対象にワークライフバランスのアンケート調査を行い、病児保育におけるニーズと潜在的需要を分析した。その他、施設見学をはじめ施設基準の作成や保育士と看護師のスタッフ教育を行い、同年10月に「ますかっと病児保育ルーム」を開室した。開室後も継続的に運営に携わり、次世代育成の観点からも子育てに関する講演会を適宜開催している。

復職支援として岡山大学病院の復帰支援制度が平成22年には、育児だけではなく介護も、制度利用理由として可能になり、対象も女性だけではなく男性にも広がった。そしてキャリアセンターを通じて岡山大学病院だけではなく、地域病院へ復職する例も徐々

に増えている。

復職支援の流れは、まだ制度内容として不十分であるが、次のようになっている。まず、最初に復職者を対象にヒヤリングや目標設定等ある程度の評価をする。また医局や地域病院との調整、相談をする。教育やロールモデルに出会う機会を提供し、シュミレーショントレーニングやマスカットミーティングなどのようなコンテンツを入れ、キャリア形成と再評価を行う。育児についての相談は随時行っている。

自らの経験を踏まえると復職には周囲の理解と支援がたいへん重要だと考えている。キャリアセンターは個々の状況にあった支援を考案し、精神的支援やシュミレーショントレーニングなどスキルアップも含めた実務的支援、そして復職者と受け入れ側の相互理解のために調整を行っていきたいと考えている。より着実な復職支援と医師として真のキャリア形成を目指した横断的な活動を今後も展開する予定である。

講演の概略は以上のような内容であった。

川畑先生自身の経験を踏まえた講演は、現在復職に悩んでいる女性医師や、これから結婚、出産、子育てに立ち向かう若い女性医師、女子学生たちに勇気を与える内容だと思った。また、このような女性医師の上司の先生方、同僚の先生方、さらには伴侶となる男性医師にも知ってほしい内容でもあった。

かつて、仕事と家庭、子育て等で悩んだ我々中高年の女性医師にとって、過去とは異なる流れができつつある安堵感と、さらにはこのプロジェクトがますます充実されることを応援する思いでいっぱいになる講演であった。

(文責 岡山県医師会女医部会委員 新津純子)

「ハーバード大学教育病院での臨床経験」

山口宇部医療センター呼吸器外科系診療部長 岡部 和倫先生



山口宇部医療センターは、呼吸器外科医6人、呼吸器内科医15人が在籍する呼吸器疾患の診療に特化した専門病院です。「呼吸器なら山口宇部医療センターへ」と近県からも患者さんが集まっており、わずか人口17万人の地方の小都市の病院ながら、肺がん手術数全国6位という数字や、悪性胸膜中皮腫の手術を関東からも受けに来ていることなど、その専門性や、とりわけ手術技術を評価されてのものが大きいと思われます。岡部先生のハーバード大学教育病院への6年3か月、3度にわたる留学での経験が、山口宇部医療センターの医療、手術成績に貢献していることは言うまでもありません。

留学の経緯や留学での研究や臨床経験、アメリカ医師免許の資格試験の経験、医師労働の様子などについて講演されました。

1985年に医師国家試験合格後、岡大第2外科に入局。1994年から2年間の研究留学後、岡大第2外科で助手となるが、自信と安心を持って手術でき、周囲からも評価される外科医になるためにアメリカでの臨床経験を積みたいと臨床留学を決意。臨床留学のためにはECFMG (Educational Commission for Foreign Medical Graduates) Certificateの取得が必須。日本で働きながらの取得に諦めかけたが、取得を最大目的に1999年から2年間2度目の研究留学。USMLE (United States Medical Licensing Examination) Step 1 (基礎医学) とStep 2 (臨床医学), TOEFL (Test of English as a Foreign Language), CSA (Clinical Skills Assessment) に合格すれば、ECFMGを取得できる。USMLE Step 1 とStep 2 では各科の基礎知識を日本語の参考書などで整理し、次に数冊のあまり厚くない英語の試験対策本や問題集などを用いて繰り返し記憶すること、CSA対策は、KAPLAN (米国予備校) の5-day Training Programがお薦め。(岡山医学同窓会報第96号(2004年4月)や山口宇部医療センターのホームページに詳述) 2002年から2年間の胸部外科臨床留学。悪性胸膜中皮腫や肺癌の外科治療で世界的に有名なDr. Sugarbakerのもとでクリニカルフェロー。5人のクリニカルフェローで呼吸器と食道を合わせて年間約2,300例の全身麻酔手術を分担。

岡部先生の講演は、3人の先輩外科医のような外科医になりたい一心で、卒後14年もたつて、何度も途方に暮れながらもECFMG取得のために苦労した経験と合格の秘訣を受験参考書持参で話され、とても楽しく、参加した若い人には有意義であり、もう若くない人にも元気の出る講演でした。研修医などの若い医師を対象に準備されたものだったので、本当に聴いて欲しい人たちの参加が少なく残念でしたが、参加した女性研修医からECFMG取得に挑戦したい意欲のある質問もありました。また、臨床研修されたBrigham and Women's Hospitalは胸膜外肺全摘でも8日と平均在院日数はとても短く、朝5時30分からの回診に始まり、7時からの手術、午後3時から3時間の回診、月7回の当直と目まぐるしい一方、当直明けは休み、当直でない夜間や週末は完全にoff、4か月毎に連続9日の休暇など、アメリカの患者の集約化がされた大病院では働きやすい環境のようでした。

多くの若い方たちが集まる機会に講演をまたお願いできたら、これからの研修や医者としてのライフプランを考える上で大きな刺激を得る事ができるのではと思います。

(文責 岡山県医師会女医部会副部長 清水順子)

◇シリーズ 女性医師支援 病院での取り組み◇

第6回

「津山中央病院 女性医師支援 遅ればせながら、
真摯にそして愚直に取り組んでいる」

津山中央病院 病院長 藤木 茂 篤



「女性医師の参加なくして、これからの医療は語れない」という大命題があります。

なぜならば、医師国家試験合格者の1/3を女性が占める時代に、女性医師に仕事を続けていただくことの重要性は、当院のような、地方の急性期病院でもひしひしと認識できるからです。現在106名の医師の中で13名(12%)が女性医師です。内3人の女性医師が既婚で、そのうちお一人は子育て中であります。

年間約5,000台の救急車、約30,000人の救急患者の対応をしながら、「お断りしない救急」と「最先端の医療の提供」を病院の方針としている現状で、この13名の女性医師に働きやすい環境を提供できているかについて考えてみたいと思います。

問題点を大胆に整理して、次の2点に着目したいと思います。

- ① ハード面では当院は女性医師が満足できる環境か？
- ② 今後、女性医師、特に既婚女性医師、子育て中の女性医師に存分に仕事をさせていただく環境とは？

まず、最初の、ハード面において満足できる環境かという問題ですが、短時間勤務制度や病児保育制度など巷間で言われているもっともな問題点の前に、当院において真摯にかつスピーディに取り組まなくてはならないことがあります。それは、女性医師が仕事をする環境づくりに「気配りが足らなかったこと」へのアプローチであります。

たとえば、手術室あるいは、いろいろな検査室の女性専用更衣室や当直室などについて見ますと、女性看護師や女性MEなどを意識した構造にはなっています。しかし、特に女性医師の存在を意識したつくりになっていないといわざるを得ない環境がありました。

最近の新たな病院建築では、女性医師の職場環境に対する配慮はほぼ常識的な観点で行われつつあると思われれます。ところが、12年前の当病院の新築設計段階では、女性医師は2～3名程度しかおらず、気配りの不備についてはやむを得ないかとも考えます。

そこで、当院に在籍する女性医師に対して、昨年より職場環境の調査を個人個人に詳細にさせていただき、環境整備の不備を痛感し真摯に反省し、その改善に向けて、愚直に、まさしく愚直に、具体的に準備を始め、迅速に実行に移しているところであります。

男女兼用であった更衣室は、男性更衣室を別に作ることにより、従来の更衣室を女性専用に特化する(今年度内)とともに、プライバシーを尊重した構造にしました。内視鏡室など構造上女性のみの特化できない場合は、更衣室に鍵を掛けることにより個室化を計っています。

当直室は、女性専用の当直室も今年度の予算がとおり、来春からはゆっくり女性医師に休養を取っていただける環境ができる予定です。女性医師用当直室増設をきっかけに男性医師用の当直室も充実するという、男性医師にとってもいい意味での副産物となったようです。

また、子育て中の女性医師の就労にとって、保育所、病児保育は大きなハードルと言わねばなりません。現在病院の敷地内にあります保育所は、延長保育も午後7時までで、医師以外の病院職員に対しても決して満足のいく環境にはありません。数年前から、週数日の24時間保育を検討してまいりましたが、立地条件から手を上げてくださる業者がないのが現状でした。この度、病院職員すべてに対してアンケート調査を行った結果、24時間保育と病児保育の必要性が大きくクローズアップされましたので、業者の範囲を広げてでも何とか24時間保育と病児保育は実現しなければとの思いを強くしているところです。

このように、ハード面での改善点は可及的迅速に、かつ愚直に取り組んでいますので、来年あたり、働きやすくなったと実感していただけるものと確信しております。

さて、第2点です。充実した女性医師支援体制を構築する上で根本的な大きい問題だと考えています。

たとえば、育児休業は1年間可能ですとか、短時間の勤務形態も考慮しますとか、形の上では女性医師個人に対する環境は整えることができるようになってきています。当院でも、入院患者免除、救急免除や妊娠・育児中の当直免除をはじめ、正規の育児休業や育児中の短時間勤務体制も相談の上取得可能となってきており、実際に運用がなされています。

ところが、問題は、その結果、すなわち上述した権利を正当に行使されたとき、他の医師(独身女性医師を含む)がどうその結果を受け入れるかであると考えます。この受け入れ体制が充分でないと、お互いが居心地悪く、続けたくても続けることができないという事態が容易に想像されます。当院でも現在525床の超急性期患者を常勤医106名で担うには過酷といわざるを得ない環境下において、ただでさえ平素の過重労働に加えて、さらに負担が増える状況になるわけです。

今、私が考えていることは、お互いがお互いの立場を尊重しあうという風土づくりです。まわりの医師、スタッフが、この先生は育児が大変にもかかわらず少しでも助けをくださっている、あるいは、勤務時間は少ないながら病院にとって是非必要な人材であるなどの評価の理解と共有はどうしても必要でしょうし、女性医師側も助けてくれて

いる同僚医師やスタッフに感謝し、時間的余裕のできたときは積極的にお手伝いをするという、お互いを尊重しあう文化を創っていくことが成功の鍵と考えています。当然一朝一夕にできることはありませんが、これこそ愚直に一歩ずつ前進していかなければ、将来の子育て女性医師の充実した職場環境は絶対にできないと考えています。

この7月末より、ある科で育児中の女性医師を採用しました。お話をお伺いしますと育児を始めとして大変な毎日です。しかし、今までの彼女の実績をみますと当院には是非いてほしい人材です。これからが当院の試金石です。何とか彼女が津山中央病院に就職してよかった、そして医師を続ける自信ができたと思っただけの文化づくりに励みたいと考えています。

まず第一歩は、全職員に彼女の現状を伝え、そして彼女を病院がいかに必要としているかを発信し、全職員で共有することから始めたいと思っています。

津山中央病院 女性医師内訳

皮膚科	1人(既婚)
泌尿器科	1人
産婦人科	2人(既婚1人)
放射線科	1人
循環器科	1人(子育て)
外科	1人
後期研修医	3人
初期研修医	3人(16人中)
計	13名(全職員中12%)



第1回ドクターズキャリアカフェ in OKAYAMA

日時：平成23年9月10日（土）14：00～16：00

場所：岡山大学病院入院棟11階カンファレンスルームC
（岡山市北区鹿田町二丁目5番1号）

◇講演：

「プロ意識の高い医師であり、かつ魅力ある女性をめざそう！」

岡山大学医歯薬学総合研究科 皮膚科学教室

准教授 青山 裕美先生

◇活動状況報告

（岡山大学 MUSCAT Jr. /山口大学 en-JoY）

◇グループディスカッション「こんな時自分ならどうする？」

※ ご出席の方、託児所をご希望の方は岡山県医師会までご連絡ください。

【お問い合わせ】

岡山県医師会 TEL 086-272-3225 FAX 086-271-1572

